

平成 26 年度 SGH 課題研究基礎力養成講座『学内留学』第 2 日実施報告

10 月 11 日（土）、今年度第 2 回の SGH 課題研究基礎力養成講座『学内留学』を実施しました。

当日午前は、1 年生の後期土曜講座の一つとして『北野 TOEIC セミナー（来年度からは、1 年次も英語 4 技能の獲得のために北野 TOEFL セミナーへと移行予定）』が開講され、236 名が 6 講座に分かれて人生初の TOEIC に取り組みました。同時に 2 年生対象の『北野 TOEFL セミナー』も 4 クラスで実施され、『北野 GRAMMAR セミナー』と合わせて、午前中 3 限中の 2 時限、3 時限には、それぞれ 11 の教室で英語の授業が行われているという本校で英語教育に携わる者にとっては記念すべき日となりました。

また、当日午後からは学校説明会が行われ、多くの中学生、保護者の皆様が学内留学を見学に来られました。心理学の部屋では、「将来心理学を学びたいと考えているので、1 時間だけ受講させて欲しい」との将来の北野生候補からの申し出に応じる場面があり、本校における英語教育の進んでいる方向性の正しさを感じました。また、保護者の中にも英語に堪能な方が相当数おられて、ネイティブ教師の説明にうなずき微笑まれている場面も見られました。

今回と次回は本年度受講生からの学習内容報告を掲載いたします。今回は 2 年 3 組の O.Y 君に報告をお願いしました。

D 講座 Psychology

1 限 Review

前回出された宿題の確認と、前回の授業で習ったことの復習をした。

宿題は、supermarket と convenience store で利用されている心理状態についてで、グループでその内容を共有した。

また、復習では、心理学における 4 つの観点、Biological、Cognitive、Sociocultural、Learning を確認した。これは、本日の内容(特に Learning について)へとつながるものだった。

2 限 Classical Conditioning

パブロフの犬の実験や実際に授業で行った実験から、条件反射などの学びによる無自覚的な行動を US(Unconditioned Stimulus)、UR(Unconditioned Response)、CS(Conditioned Stimulus)、CR(Conditioned Response)に分けて考え、学んだ。

3 限 Operant Conditioning

スキナーの研究から、行動を positive reinforcement、negative reinforcement、positive punishment、negative punishment に分け、行動に伴うさまざまな経験がその行動自体にどのような影響を与えるかについて学んだ。

4 限 Real World

2、3 限で学んだことが、実際の生活(広告など)でどう活用されているのか、2 限、3 限の授業で行ったやり方で分類し、その仕組みを理解した。

5 限 Presentation Skills

次回以降の授業に向けて、プレゼンテーションの基礎とよく用いられる表現を学んだ。また、本日の内容にかかわる宿題も出された。

次回は、11 月 1 日（土）の実施。3 時 10 分、各生徒は多くの課題を抱えて帰途に就きました。

